

2020年度 ゆたか福祉社会事業計画

はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大は、日本国内も含め世界的な規模で拡大・長期化する様相を呈してきています。まさに「公衆衛生上の緊急事態」(WHO)であることを十分に自覚し、それぞれの事業所や地域・社会のかたで、感染を持ち込まない・広めない取り組みに、全力を挙げていくことが必要です。

新年度の事業計画の基となる「第6期総合計画（20～24年度）」は、感染拡大の影響で未完成のまま新年度を迎えることになりました。6期計画については、新年度最初の理事会（5月）で確認できるよう引き続き検討をすすめていくこととし、各分野・各事業所の20年度事業計画については、これまで議論を重ねてきた「6期計画（案）」の内容に沿って具体化していくこととします。

- ・ (2) 延期した50周年記念関連行事については、安心して開催できる時期を見定めながら、諸準備をすすめていきます。
- ・ 本年秋頃の開催をめざし、会場の選定・確保をすすめます。

1 基本方針

- ・ (1) 障害のある人たちの命や健康を守り、その願いや人権を尊重した支援をめざしていきます。
- ・ 新型コロナウイルスの感染を防ぎ拡大を防止するため、日常の安全衛生や感染防止対策の強化に取り組みます。

- ・ 東日本大震災から10年の年に当たり、法人・各事業所の防災対策を見直し強化します。
- ・ 引き続き、権利擁護・虐待防止や、苦情解決、意思決定支援の取り組みをすすめていきます。

(4)

- ・ 社会福祉・社会保障、障害者施策を守り発展させるため、関連団体と共同して多様な要求運動に取り組んでいきます。
- ・ 結成が予定されている「権利を守る社会福祉法人経営全国会議（仮称）」について、法人としての参加の意義を検討していきます。

(5)

- ・ これまで積み上げてきた地域との交流をさらに発展させ、障害のある方や高齢の方たちが、「コミュニティーの一員として社会に参画できる機会を増やしていきます。
- ・ 地域住民や関連団体との交流や対話の機会を増やし、地域との関連のなかで私たちの事業の意味や役割について議論を深めていきます。

(3) 「第6期総合計画」については、各職場で学習や議論を行い内容を共有化するとともに、その具体化や実践の第一歩を踏み出します。

委員会との「建設的対話」の内容にも注目していきます。

21年度の報酬改定へむけ、給食提供体制加算の継続やグループホームの夜間体制の改善など、要求運動を強めています。

就労継続B型や生活介護事業所における障害のある人の活動を「労働」と認めてもらうために、消費税の更正請求に取り組み、その運動を全国へ広げていきます。

する日本政府と国連の障害者権利

5

2 6期計画（案）に掲げた重点課題の推進

し、その創意をもとにまとめていくようにします。

- (1) 希望される方の福祉村から名古屋への移住の実現
 * 日中支援型グループホームの21年度中の着工へ向け、プロジェクトチームを中心に建物図面の検討や行政との協議をすすめ、補助金申請を行っていきます。

- (2) 福祉村の新しい将来構想の設計と実現
 * 定員規模縮小後の新しい福祉村の将来構想を、20年度末を目指にまとめていくとともに、行政との協議を始めていきます。
- (3) 元塙・星崎地域の事業所の活動内容や機能の整理・再編
 * 関係事業所の管理者を中心に、課題推進のための検討チームを立ち上げ、まずは各事業所や地域の現状や課題についての共有化を図っていきます。
- (4) 地域とともに歩む新たな活動の展開
 * 東日本大震災10周年（2021年3月）へむけ、地域の関係者とともに、きょうされん40周年映画「星に語りて」の上映会をそれぞれの地域で開催し、防災活動の啓発と共同の取り組みをすすめていきます。

- (5) ベトナム・フエのパートナー団体と3法人の事業連携の発展
 * フエ科学大学における人材養成の仕組みを具体化するとともに、人材の送り出しや受け入れのための関係機関・団体との調整をすすめています。
- * 人材受け入れのための法人・事業所内部の環境整備をすすめていきます。
- * 清掃関連事業の統合や合流の方向性について議論を整理していくます。
- * 活動や機能の再編の基本的な方向性について議論を整理していくます。
- * 安心して名古屋への移住ができるよう、利用者・ご家族の不安や疑問、要望等に丁寧に応えていきます。

- 3 事業と実践の展開**
- (1) 各事業本部の主な計画
 * 「事業所みなみ」と「グループホームエール」の所属ホームの再編を実施し、管理運営体制を軌道に載せていきます。
- * ゆたか通勤寮卒寮者を主な対象としたアパート型グループホームの大規模修繕に関する事業や支援のあり方を深めていくため、関連事業所を集めた検討会を開催し、現状を共有するとともに今後の課題を整理していきます。
- * 生活介護における事業や支援の方針を深めていくため、関連事業所を集めた検討会を開催し、現状を共有するとともに今後の課題を議題として、名古屋市・環境局との間で協議と調整を進めていきます。

設置へむけて、引き続き候補地等の選定をすすめています。

◎ 尾張事業本部

*行政指導や利用者の実態に合わせ、必要なホームについては本格的な夜勤体制への移行を実施していきます。・・事業所尾張／事業所あつた

*ライフサポートゆたかを中心には、家族レスパイトや緊急時の対応へのニーズに応えていくため、日中一時支援事業の具体化について検討を始めていきます。

◎ 福祉村事業本部

*福祉村から名古屋への移住と、福祉村の新しい将来構想の設計へむけて、準備や検討をすすめています。

*グループホームについては、職員の補充を行い、夜勤体制の改善や土日開所、研修の参加をすすめています。

◎ 相談支援事業本部

*引き続き、介護職員初任者研修や公開講座の開催、広報紙の発行、地域生活支援コーディネーターの活動などを行い、福祉村と地域をつなぐ取り組みに力を入れていきます。

*大規模地震や夜間火災への対応について、地元消防団との連携を深めています。
*ベトナムからの人材受け入れ態勢

の整備をすすめます。

本人中心の支援ネットワークづくりに取り組み、地域福祉の諸課題に取り組んでいきます。

*モニタリングの確実な実施による給付費の請求等、指定相談事業全体の財政赤字の削減に努めます。

◎ 名古屋高齢事業本部

*利用者増へむけ、関係機関への働きかけを行うとともに、日中一時支援や実習の積極的な受け入れ、送迎や開所時間の拡大を検討していきます。

*デイサービス宝南では、介護保険の通所介護とともに、共生型生活

介護の事業運営を発展させ、多様な利用者が触れ合い、日中の生きがいや楽しみを提供していきます。

*「オレンジカフェゆたかめ」を継続し、地域の認知症高齢者の居場所づくりとして運営していきます。

(3) 権利擁護・虐待防止の取り組み

*18年度に実施した、虐待防止セルフチェックアンケートのまとめと分析を行い、支援の向上に活かせます。

*利用者への聞き取りや家族アンケートを実施します。

4 人材の確保と育成

(1) 人材の確保

*新規学卒者をはじめとする多様な人材の確保に努めます。

*採用活動にあたる若手職員のプロジェクトチームを編成し、専門業者の協力も得ながら、採用活動におけるスキルアップを図ります。

害や障害の重度化を抑制・防止していく取り組みを推進していきます。

*相談支援の分野で障害と高齢の連携を深めていくために、交流会や合同の会議を開催し、今後の方向性について議論を開始していきます。

(2) 高齢期への対応

*昨年からいくつかの事業所で始まった、P.TやO.Tの巡回によるリハビリ支援（作業環境や労働安全衛生の視点含む）の取り組みを継続発展させ、現場での二次障

* 学生の満足度を高めるために、「ゆたかツアーア」の開催や魅力あるインターネット・シップのプログラムの検討、映像による事業紹介などの取り組みを進めます。

* 高卒者の採用については「進路情報フォーラム」への参加を足掛かりにしながら、現状把握に努めます。

◎ 中途採用の方の人材確保に努めます。

* 引き続き転職者向けサイト等、媒体を通しての情報発信に努めます。

* 福祉村での人材確保については、「介護職員初任者研修」の開催やHPの活用、また日常のつなぎを活かし、地元からの採用ができるよう取り組みを進めます。

* ベトナムからの人材確保についても取り組みます。

◎ 海外人材の確保に向けて

* ベトナムからの人材確保については、フエ科学大学やパートナー団体、三法人との連携における取り組みを進めます。

組みが進むよう、長期・中期の見通しを持ちつつ、特別な体制を取り進めます。

* 福祉村におけるベトナム技能実習生の受け入れについては、短期・中期の見通しを持ちつつ、事業所の協力を得ながらサポート体制を整えます。

◎ 次代を担う職員の育成を多様な形で進めます。

* 50周年事業に向けて作成した記念誌などの資料を活用しながら、研修の充実を図ります。

(2) 職員の育成

◎ 入職時における年齢や経験、入職後の諸条件も多様化するなかで、入職後5年までの階層別研修について新たな整理を行います。

* 階層別研修は「基礎研修」「基礎研修II」として大別し、より体系的な研修をめざします。研修プログラムは「基本編」「技術編」「実践編」に分類し、キャリアパスも視野に入れた「選択制」の導入を図ります。

* 全体の職員研修等では、経験年数や職種も様々な皆さんのが「共通テーマ」で話し合うことを通じ、学びあう機会となるようなグループ交流を位置付けます。

* 新管理職研修は実践的内容で行い、学びが日々の管理労働につながるようにします。

* 勤怠データを磁気カード・パソコン・モバイルから取り込み、出退勤時間・所定労働時間・休憩・休日・実労働時間・残業時間・有給休暇等を法令や就業規則に沿った形で管理していくま

◎ 2019年度に導入した勤怠管理制度を、全事業所で本格的に稼働して行きます。

◎ 次代を担う職員の育成を多様な形で進めます。

* 50周年事業に向けて作成した記念誌などの資料を活用しながら、研修の充実を図ります。

(2) 勤怠管理・給与計算業務の合理化

* 50周年事業に向けて作成した記念誌などの資料を活用しながら、研修の充実を図ります。

◎ 同一労働同一賃金の原則に照らして、障害分野・高齢分野、正規職員・非正規職員の均等・均衡待遇を確保と、給与表の改定を検討しています。

* 正規職員・エリア採用職員・フルタイム常勤職員の均等・均衡待遇の確保

◎ 産業医を通じて、悩みや不安を抱える職員が気軽にカウンセリングを受けができる仕組み作りを引き続き検討していきます。

◎ また、法人全体で理解を深めるため、一般職・管理職に向けた研修を行っていきます。

(1) 労働条件の整備

◎ 産業医を通じて、悩みや不安を抱える職員が気軽にカウンセリングを受けができる仕組み作りを引き続き検討していきます。

◎ また、法人全体で理解を深めるため、一般職・管理職に向けた研修を行っていきます。

◎ 産業医を通じて、悩みや不安を抱える職員が気軽にカウンセリングを受けができる仕組み作りを引き続き検討していきます。

◎ また、法人全体で理解を深めるため、一般職・管理職に向けた研修を行っていきます。

◎ 産業医を通じて、悩みや不安を抱える職員が気軽にカウンセリングを受けができる仕組み作りを引き続き検討していきます。

◎ また、法人全体で理解を深めるため、一般職・管理職に向けた研修を行っていきます。

(4) 事故防止の取り組み

◎ 2018年度、2019年度と職場環境が原因となる大きな事故は起きていませんが、2018年度に半減した軽微な労災事故（主に通勤途中の事故）の件数が2019年度にまた増加してしまいました。現在PT・OTで進めてある労働環境の見直しを全事業所に拡大し、また専門家の視点を取り入れながら、労働環境の改善に努め、事故防止に取り組んでいます。

6 経営組織・運営機構の強化

- (1) 理事会・評議員会等の運営や体制強化
- * 各会議を定期開催し、法人事業や組織の強化をはかります。
 - ・ 理事会5回（5月、8月、11月、1月、3月）
 - ・ 評議員会3回（6月、12月、3月）
 - ・ 運営協議会2回（8月、1月）
- (2) 災害対策や感染症対策の強化
- * 「災害対策・事業継続計画規程」の見直しを行うとともに、各事業所の防災・避難計画の点検整備や訓練を強化していきます。

* 外部法人による監査対象となる収益30億円が近づいており、その動向をみながら監査法人の選定作業をすすめています。

(2) 本部機能や組織機構の改善と強化

* 第6期計画に掲げた諸課題を推進していくための組織体制の検討と再編をすすめます。

・ 基幹会議のあり方も含め各種会議や委員会等の機能の整理を行い、6月頃を目途に新しい組織体制に再編していきます。

・ 合わせて、各課題を推進していくための人的体制の整備についても検討を進めていきます。

* 新型コロナ感染の影響等により、会議や研修の機会縮小が今後も想定されますが、インターネット等を活用した代替の情報提供の仕組みについて検討・整備していきます。

2020年度当初予算

	科 目	当初予算額
事業活動による 収支	介護保険事業収入	122,979,000
	就労支援事業収入	322,451,819
	障害福祉サービス等事業収入	2,575,181,710
	公益事業収入	3,708,000
	収益事業収入	12,100,000
	借入金利息補助金収入	842,399
	経常経費寄附金収入	12,430,000
	受取利息配当金収入	99,157
	その他の収入	32,206,214
	事業活動収入計(1)	3,081,998,299
	人件費支出	2,059,737,735
	事業費支出	300,316,548
	事務費支出	271,022,107
	就労支援事業支出	307,991,503
	支払利息支出	4,053,555
	その他の支出	20,778,200
	事業活動支出計(2)	2,963,899,648
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	118,098,651
施設整備 収支	施設整備等収入計(4)	5,971,932
	施設整備等支出計(5)	119,991,459
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-114,019,527
その他の 収支	その他の活動による収入計(7)	123,711,600
	その他の活動支出計(8)	90,488,600
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	33,223,000
当期資金収支差額合計(10)=(3)+(6)+(9)		37,302,124

* 各事業所における感染症や食中毒対策を強化するため、研修の実施や、マニュアルの整備と業務への標準化をすすめます。

* 地域の防災活動に積極的に参加するとともに、きょうされん40周年記念映画「星に語りて」の上映活動をとおして、地域住民との連携を深めていきます。

7 財政計画と運営

※ 2020年度当初予算 参照